

【大学院音楽研究科 博士前期課程（修士課程）】

<2026年度 外国人留学生入学者選抜> 試験科目と出題意図

各試験科目について、2026年度入学者選抜の出題意図を公開します。

— 試験科目一覧 —

専攻	試験科目									
	実技試験	新曲視奏	和声基礎 (バス課題)	作品提出	小論文	英文和訳	専攻分野 筆記試験	口頭試問	面接※ <sup>2</sup>	書類審査※ <sup>3</sup>
器楽	○	○※ <sup>1</sup>	○	—	—	—	—	—	○	○
声楽	○	—	○	—	—	—	—	—	○	○
作曲	○	—	—	○	—	—	—	○	○	○
音楽学	—	—	○	—	○	○	○	○	○	○
音楽教育	○ (器楽・声楽)	—	○	—	○	—	○	○	○	○

※<sup>1</sup>新曲視奏はピアノコラボレイティブアーツコース受験者のみ

※<sup>2</sup>面接では事前に提出された日本語作文と、それに基づく面接試験により、日本語能力試験「N2」程度の能力があるかどうか審査します。

※<sup>3</sup>書類審査は成績証明書等によって行います。

— 出題意図 —

試験科目	出題意図	備考
実技試験	<p>器楽・声楽専攻については、専攻する実技の特性を踏まえた課題を審査員の前で演奏することにより、博士前期課程（修士課程）において学ぶに足る専門的な演奏能力(技術力、表現力)が身についているかを判定する。</p> <p>ピアノコラボレイティブアーツコースについては、声楽家、器楽奏者と共に音楽を創り出していく課題を課し、受験者が備えているアンサンブル能力を判定する。さらにピアノ独奏の課題を演奏することにより、演奏能力を判定する。</p> <p>作曲専攻については、時間内に限定された素材を活用して曲を完成させることから、応用力や計画的完遂力などを判定する。</p> <p>音楽教育専攻については、専門以外の実技として学修する実技（器楽、声楽）について、任意の曲を審査員の前で演奏することにより、音楽教育を研究する上で必要な基礎的な演奏能力(テクニック、表現力)を判定する。</p>	

新曲視奏		ピアノコラボレィティブアーツコースは、声楽家、器楽奏者と共に音楽を創り出していくピアニストの養成を目指しているコースであるため、初めて見る譜面を直ちに的確に演奏する力が必要である。試験においては、声楽あるいは器楽の独奏パート（1声部）を含む新曲を、楽曲全体のイメージが表せるようにピアノで適宜アレンジしつつ演奏することを課し、その能力を測定する。	
和声基礎 (バス課題)		大学院で開講される授業の基礎知識として必要とされる調性、和音についての理解力を判定する。	
作品提出		出願書類とともに提出された任意の自作品の楽譜1曲（その音源を添えても可）から、楽器法、記譜法、楽曲構成法などの習熟度や表現力を判定する。	
小論文		音楽学専攻については、出願時に「大学院における修士論文の計画」と題した小論文を提出する。 音楽教育専攻については、出願時に「武蔵野音楽大学大学院音楽研究科で学ぶ意義」と題した小論文を提出する。 それぞれ、記載内容から、探究意欲について確認する。	
英文和訳		外国人留学生が文章の主旨・構造を理解して和訳できているかを判定する。	
専攻分野筆記	音楽学専攻	音楽ないし音楽学に関わる基礎的な論述問題を課し、内容の的確さと日本語の文章で表現する能力を判定する。	
	音楽教育専攻	音楽教育に関する基本的な事柄についての問題を課し、自分の考えを日本語の文章で表現する能力を判定する。	
口頭試問	作曲専攻	作品提出・実技試験についての口頭試問を行い、提出作品は本人が制作したものであるかを確認し、創作意図と作品の整合性を見る。大学院での作曲の授業、論文指導等に必要な意欲や能力を有するかを判定する。	
	音楽学専攻	小論文・英文和訳・専攻分野筆記試験についての口頭試問を日本語で行い、本学で研究するために必要な専門的な能力を備えているか判定する。 また、出願時に提出の日本語による小論文に基づく試問を行い、日本語能力試験「N2」程度の能力があるかどうかを判定する。	
	音楽教育専攻	上記「小論文」「専攻分野筆記試験」および入学後の研究計画に関する試問を日本語で行い、本学で研究するために必要な専門的な能力を備えているか判定する。 また、出願時に提出の日本語による小論文に基づく試問を行い、日本語能力試験「N2」程度の能力があるかどうかを判定する。	
面接		出願時に提出の日本語作文に基づく面接を日本語で行い、日本語能力試験「N2」程度の能力があるかどうかを判定する。	
書類審査		成績証明書等からこれまでの学修成果を確認する。	